

捕獲等事業評価シート
様式

(熊本県 環境生活部環境局自然保護課)

評価シート（二ホンジカ）

1. 事業評価と見直しの基本的な考え方

本評価シートでは、以下の STEP 1～3 のとおり、捕獲等事業が計画通りに行われたか、その結果期待した成果が得られたか、といったことを確認します。

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲場所・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	白髪岳団地（国有林）
事業主体	熊本県自然保護課
事業実施期間	令和6年12月20日～令和7年3月21日
捕獲手法	くくりわな
事業メニュー	②捕獲等メニュー
事業費	3,735,967円

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 70 頭	くくりわな：15 頭	捕獲目標の達成率は21%であった。目標が達成できなかった理由として、捕獲期間中に積雪があり、わなが正常に稼働しなかった。
捕獲作業量	くくりわな：45 台日	くくりわな：40 台日	概ね計画通りの作業量を投じることができた。
効率的な捕獲	くくりわな：1.55 頭/台日 ※計画捕獲予定数	くくりわな：0.33 頭/台日	積雪期間にわなが正常に稼働しなかったためと考えられる。積雪後は捕獲があったため、生息数密度が高い地域と思われる。
事業に要した人員数	延べ 130 人	延べ 150 人	概ね予定通りの人員数を投じて作業を実施した。従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.1 頭であった。
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった。	安全に予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがないよう林内に埋設。	提出した計画に沿って作業を行った。獣による掘り起こし等は発生しなかった。	予定通りの計画で事業は遂行された。

環境への影響への配慮	・止めさしは可能な限りナイフで行う。	・止めさしは可能な限りナイフで行われた。	予定通りの計画で事業は遂行された。
捕獲個体の属性	・オス 19 頭、メス 55 頭 ・成獣 72 頭、幼獣 2 頭 ※昨年度事業実績	・オス 2 頭、メス 13 頭 ・成獣 13 頭（うち 1 頭は胎児有）、幼獣 2 頭	実施地域が昨年度と異なるため、比較は難しいが、メスの割合が高く、定着が進んでいると考えられる。

- 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 kmメッシュ地図/1 kmメッシュ地図）
 - ・ 捕獲数とその位置を落とした図（必須）



STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

白髪岳団地（国有林）

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	<ul style="list-style-type: none"> 有害捕獲数の増加や生息状況調査で密度の高い地域を実施地区として選定した。 事業実施前半は積雪前であり、捕獲した半数以上が前半に捕獲された。
事業実施後もしくは事業終盤・後半	<ul style="list-style-type: none"> 後半は積雪もあり、捕獲数が予定より伸びなかった。
評価	本年度から事業実施した場所であり、シカが警戒したことや事業実施時期に積雪があり、わなが適切に作動しなかったと思われる。しかしながら、積雪前の時期に捕獲数が集中していることから、継続して捕獲を行うことや事業時期次第では捕獲数増が見込まれる。

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	(シカ) <ul style="list-style-type: none"> 未確認
事業実施後もしくは事業終盤・後半	(シカ) <ul style="list-style-type: none"> 未確認
評価	(シカ) 事業前後の検証が不十分であったため、R7 年度は事業前後の検証も行っていない。

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

※添付図面なし

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：予定よりも事業実施時期が遅くなり、目標の 46%の捕獲率となった。
	改善点：積雪より前の時期に事業実施を行う。
【実施期間】	評価：積雪等の時期と被ったため、くくりわなが作動しなかった。
	改善点：積雪より前の時期で事業実施を行う。
【実施位置】	評価：適切
	改善点： —
【捕獲手法】	評価：適切
	改善点： —

【捕獲コスト】	評価：目標よりも1頭あたりの捕獲単価が16万円増となった。
	改善点：目標捕獲数となるよう事業実施時期、わなの設置場所を検討する。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：適切
	改善点：—
【個体処分】	評価：生態系に重大な影響を及ぼすことなく、適切に埋設された。
	改善点：—
【環境配慮】	評価：適切（可能な限りナイフによる止めさしを行った）
	改善点：環境配慮するよう契約の際の仕様書に追記する。
【安全管理】	評価：適切（注意を促す立て看板を設置し、人身事故やその他の事故は発生しなかった）
	改善点：—
3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし。	
4. 全体評価 体制の整備に関しては計画通りだったものの、事業実施時期が予定よりずれ込んだこともあり、目標頭数を捕獲できなかった。また、事業前後の検証が不十分であったため、R7年度は事業前後の検証も行っていく。本事業の別メニューで効果的捕獲についても検証を行うため、捕獲方法についてもR8年度は検討していく。	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	第二特定鳥獣管理計画での目標では有害捕獲数19,000頭/年となっている。昨年度生息状況調査を行い、大幅に推定生息頭数が増加していることが分かったため、目標の修正も検討する。
寄与状況の評価	昨年度は事業以外の捕獲数も上記目標捕獲数を上回る捕獲数となっている。本事業も捕獲に寄与しているものの、個体供給地となっている奥山の森林で捕獲を進めることで、個体密度を低下させ、生態系被害や農林業被害の低減に寄与すると考えられる。